

東北日日新聞

本報創刊二十二年
郵政特准掛號認爲新聞紙類
社址 石城郡平町白根
支店 青木龜吉氏四男克巳
電話 二二七
印刷 石城郡平町白根
代印 山形縣山形市
發行所 石城郡平町白根
無休 日新新聞社
刊 日新新聞社

社説

石城民政黨部會のふん争

は、その後いろいろの形
でます。激甚を極める
に至つた。

正統派と稱する若松縣議
を中心とする一派が、野
崎縣議を首領とする急進
的一派を悉く目の仇にし
てゐるが、それが正しいか
正しくないかは別問題とし
て、若松派の策士連は
超黨派的立場から、野
崎氏の行爲を云々してゐ
るも、その實宣傳ほどの
實力もないのか。六日の
總會などは當然すぎる程
野崎氏に不利であつたの
が、野崎氏の策と、闘將
達の奮戦によつて、遂に
難關を突破した。

若松派は口ほどにもなく
その宣傳除名處分問題も
ごうやら暗から暗へと消
えたやうである。

机上の論議と、實際開て
とは現實するに及んでそ
の凡てが可能ばかりでな
いといふことを知つてゐ
たのであらうか。

野犬の牙のやうに鋭い
戦闘力を有する猛將は野
崎派に多数である、

その實力が黨内を壓する
ばかりでなく、對外的に
恐怖を抱かせるものは
野崎派である。

第一線に屍をのり越せて
行く進出の勇敢さは野崎
派である。

この勢力に對抗するに足
るだけの力が、若松派に
とほしいといふことは直
ちに大言壯語ほどには野
崎派を處置することが出
来ないといふ所の明らか
に弱者としての曝露に依
つて知ることが出来るだ
らう。

洗練された智識と、教養
などは明白に野崎派を壓
するかも知れぬが、闘争
力のないことは依然とし
て現實の悲哀であらう
一部に二つの部會を有し
てゐる光榮は、日本全國
に石城本郡あるのみであ
ることを知つて、民政黨

部會の諸君は何んと考へ
てゐるであらう。

抱擁力を有する人が、最
後の勝利者であるとする
にしても、はばかる所がな
い、明確な處置と、決裁
とが若松派に出来ないな
らば、大量腹を示して野
崎氏を抱擁すべきである
殺すことも生かすことも
出来ないで、正統直統を
論斷の資格果して奈邊に
あらう。

石城民政黨部會のための
みならず、野崎氏を喪失
しての損失は決して僅少
なものではないからう
私情を離れ、豪腹をみせ
政黨本來の使命の一義に
進出せんことを祈るもの
である。

第一線に屍をのり越せて
行く進出の勇敢さは野崎
派である。

縣下消防組

殉職組員慰靈祭

十五日平署會議室で

緑川佐伯氏外拾參名を

来る十五日午前八時より平
警察署會議室に於て福島縣
下殉職消防組員慰靈會を執
行されるが殉職消防組員は
去る大正十二年九月二十日
平町品川白煉瓦株式會社工
場火災の際焼柱潰倒して職
に殉じた平町材木町消防小
頭緑川佐伯氏外左記の十六
名である

- 福島市福島 消防手 野口庄太郎
- 信夫郡杉妻村島谷 全
- 石城郡磐崎村湯長谷 全
- 小頭 野木廣吉
- 信夫郡清水村大字泉 全
- 山岸長藏
- 田村郡三春町大野 消防手 渡邊寅之助

- 石川郡石川町北野 全
- 溝井彦太郎
- 信夫郡笹谷村字西二丁目 全
- 遊佐與市
- 耶麻郡猪苗代町東町 全
- 神谷春吉
- 小頭 耶麻郡木幡村 全
- 中島八郎
- 石川郡小鹽村江持 全
- 近内金次郎
- 石城郡平 全
- 緑川清造
- 伊達郡川俣町米坂 全
- 菅野玉吉
- 田村郡三春町四軒町 全
- 伊達郡梁川町古町 全

- 小柳清四郎
- 河沼郡勝常村三川 全
- 中島八百重
- 田村郡宮城村高倉 全
- 能田春之助
- 石城郡平町材木町 全
- 緑川佐伯

湯本の 四人情死は

事實らしい

石城郡湯本町三函本つた家
高萩佐久間方抱ひ藝妓金大
事手塚あさ(二〇)同豆子車
佐藤うめ(一七)の兩名並に
同町米穀雜貨商緑川辰蔵三
男正雄(二一)同文華堂書店
松雄長男森茂(二三)の四名
が去る一日家出行衛不明に
なつことは既報の如くであ
るが右事件については茨城
縣平海海岸に於て情死した
如く見せ行衛をくらました
ものと見られてゐたが家出
後七日を経過するも何等音
沙汰なく平海附近の驛から
乗車した形跡もなく所持金
もなかつた点等から見て事
實馴染である金太と正雄豆
子と茂の四名は悲惨な情死
を遂げたものと見られてゐ
る

電線専門の 賊捕はる

目下餘罪を取調中

安積郡河内村大字河内生れ
當時石城郡湯本町上町居住
鈴木周太郎(三七)は去る三
月二十三日頃同町淺露地内
山林より電話線六十五間を
窃取した事實發覺して昨六
日午後七時頃遂に捕はれた
が同人は尙此の種の犯罪あ
らしく目下嚴重取調中

息昌儀病氣療養中の處藥石効なく本

日午前五時死去致候に付き此段御通

知に代へ廣告仕候

追而来る九日午後一より同二時まで平町良善
寺に於て告別式相替り可申候
昭和五年四月七日
石城郡平町三丁目
親戚總代 山田勇太郎
佐藤榮之助
友人總代 千葉彦治

鮮魚取引所對 平魚市場の紛争

第三者の手を待つか

市場側が折れて出るか

平魚市場と魚鮮取引所が紛
争してゐるいはゆる市場側
も行かぬ關係から官督官廳
題について加納市場社長は
七日本署ならびに平町當局
を訪れて取引所の取締方に
何れにしても同問題の解決
場と見なす點の解釋につい
ては縣當局においてすらも
或る程度まで疑義を抱いて
ゐる隨つて市場類似として

平第三小學校 新築開校式舉行

約二百餘の來賓を招待し

十三日盛大に舉行される
平町に増設された第三小學校十三日午前十時から同校に
校は去る四月一日から開校於て落成並に開校記念式を
請負人から工事の引き繼ぎ舉行する事になつた學式費
も終つたので平町では來る用は約一千圓知事學務部長會を開催される由

郡下財務委員會

平稅務署主催の石城郡下各
町村財務委員會は来る十一
十二の兩日舉行されるが出
席者約九十名ぐらゐの豫定
で尙十一日は松ヶ岡公園に
於て觀櫻會を催す等

木炭委員總會

来る十二日午前九時より各
種團體事務所樓上に於て木
炭同業組合木炭検査委員總
會を開催される由

人氣投票券

選 佳 六 十 三

父 山田勇太郎
親戚總代 佐藤榮之助
友人總代 千葉彦治

春!!花!

この季節こそ最も寫眞
のよくされる時です

大野寫真館

何時でも出張撮影
に應じます

平町 仲田町

創刊一週年記念 人氣投票

本日正午まで到着の分

- | | | | |
|-----|---------------|---------------|----------------|
| 篤志家 | 三三〇票 山崎與三郎 | 二二〇票 島田忠夫 | 二二〇票 深見霞鏡 |
| | 一五〇票 佐藤三平 | 九〇票 酒井輝香 | 九〇票 加藤正保 |
| | 一〇〇票 安島重三郎 | 七〇票 江尻博孝 | 七〇票 小林成次 |
| 宗教家 | 二六五票 松堂院 宍戸正勝 | 二二〇票 性源寺 遠藤心光 | 二二〇票 九品寺 桐原英純 |
| | 一八五票 菩提院 加藤隆瑞 | 九〇票 欣淨寺 清水澄香 | 七〇票 普門寺 小林智興 |
| | 五〇票 大寶寺 柳田悦巖 | 四五票 良善寺 中村月城 | 一〇票 中村月城 |
| 料理店 | 三五〇票 松本樓 | 三〇〇票 炭屋 | 二〇〇票 谷口樓 |
| | 一五〇票 大和屋 | 一〇〇票 谷口樓 | 九〇票 大和屋 |
| | 九〇票 大和屋 | 七〇票 大和屋 | 五〇票 大和屋 |
| | 五〇票 大和屋 | 三〇票 大和屋 | 一〇票 大和屋 |
| 藝術家 | 二二五票 尺八 谷口鹿童 | 一七〇票 琴 新妻佐喜柱 | 一七〇票 彫刻 本田朝忠 |
| | 一七〇票 童話 川崎小鳥 | 九三票 画家 安藤廣吉 | 六四票 辯士 井孝 |
| | 六〇票 琵琶 大原錦陵 | 四五票 長唄 杵屋彌壽千代 | |
| 運動家 | 三〇〇票 乘馬 加藤丈夫 | 二八〇票 卓球 山田勇太郎 | 二〇〇票 陸上 花澤輝一 |
| | 一五〇票 庭球 奥津昌 | 八四票 庭球 大坪光夫 | 七五票 野球 織田安次郎 |
| | 一三陸上 高根澤秀雄 | 三 後藤晃雄 | |
| 政治家 | 二二〇票 井上茂作 | 二〇〇票 鈴木辰三郎 | 一六五票 中澤光彌 |
| | 一六五票 比佐昌平 | 一三五票 伊藤淺之助 | 一二〇票 小野晋平 |
| | 九〇票 萩原義雄 | 六六票 佐々木龍若 | 三五票 高岡唯一郎 |
| 商店 | 五〇〇票 釜屋商店 | 五〇〇票 マルカ | 五〇〇票 和久井屋 |
| | 五〇〇票 大塚運動具店 | 二四〇票 三井呉服店 | 二三五票 ツルヤ |
| | 一四〇票 丸ほん | 一一八票 大谷時計店 | 九〇票 山城屋 |
| | 九〇票 中野呉服店 | 九〇票 大黒屋商店 | 二一 山野邊藥局 |
| | 一四 郡司米店 | 一五 ホンチエンストア | |
| 請負師 | 五〇〇票 佐々木健一郎 | 一九二票 丸山喜一郎 | 一四三票 荒川銀治 |
| | 一四三票 前澤文太郎 | 一〇五票 猪狩菊三郎 | 一〇三票 田中宜治 |
| | 七九票 筒井象治 | 七九票 中山吉之助 | 七九票 只野忠康 |
| | 七五票 渡邊長作 | 二五票 赤塚兼助 | |
| 醸造家 | 二六〇票 鶴仙松吉屋 | 一三七票 小錦和泉屋本店 | 一〇三票 由良之助 永山和平 |
| | 一〇三票 近盛馬目合名會社 | 七〇票 稻妻古川傳一 | 七〇票 花の友 山崎元三郎 |
| | 五〇票 一福美四家又一 | 四七票 白馬の雪 松本徳二 | 三三票 三國一 渡邊貞三 |
| | 三三票 實業家 諸橋守治 | | |
| 醫師 | 七〇票 武田精一 | 一〇一 山崎登 | 一三五 小野晋平 |
| | 一〇一 馬目武之助 | 三五 木村淳 | 三五 島田兼吉 |
| | 三五 藤沼中次郎 | 三六〇 川井重之 | 三二九 大和田郡司 |
| | 三二九 高久忠 | 二九二 川井安子 | 二七三 清水廣政 |
| | 一六五 加澤忠治 | 一六一 藤本順 | 一四三 原精一 |
| | 一一八 金成忠義 | 一一一 上田耕作 | 九六 赤羽清 |
| | 九三 大森勇 | 八四 難波陸 | 三三 木村守江 |
| | 三一 渡邊久 | | |

- | | | | |
|-------|-----|--------|-----|
| 酒井ミヨ | 二四二 | 江口忠一 | 二四二 |
| 清野キヨ | 二一五 | 關内正一 | 二一五 |
| 鷹崎ヲヨ | 一八五 | 阿部政右衛門 | 一八五 |
| 藤田榮助 | 一四三 | 金成通 | 一四三 |
| 大和田豊吉 | 一三五 | 高橋龜松 | 一三五 |
| 會我直治 | 一三〇 | 山崎清三 | 一三〇 |
| 赤津千里 | 一二五 | 小野晋平 | 一二五 |
| | 一〇一 | 武田精一 | 一〇一 |
| | 七〇 | 馬目武之助 | 七〇 |
| | 三五 | 醫師 | 三五 |
| | 三五 | 木村淳 | 三五 |
| | 三五 | 島田兼吉 | 三五 |
| | 三五 | 藤沼中次郎 | 三五 |
| | 三五 | 川井重之 | 三五 |
| | 三五 | 大和田郡司 | 三五 |
| | 三五 | 高久忠 | 三五 |
| | 三五 | 川井安子 | 三五 |
| | 三五 | 清水廣政 | 三五 |
| | 三五 | 加澤忠治 | 三五 |
| | 三五 | 藤本順 | 三五 |
| | 三五 | 原精一 | 三五 |
| | 三五 | 金成忠義 | 三五 |
| | 三五 | 上田耕作 | 三五 |
| | 三五 | 赤羽清 | 三五 |
| | 三五 | 大森勇 | 三五 |
| | 三五 | 難波陸 | 三五 |
| | 三五 | 木村守江 | 三五 |
| | 三五 | 木村寅二郎 | 三五 |
| | 三五 | 渡邊久 | 三五 |

喫茶の店

パーククララ

洋菓子店 遠藤

電話 七四六番

勸業債券 復興債券

多田金井質店

電話 八六九

趣味に滋養強壯の
乳酸菌飲料
「ホシラケゲン」

朝の一杯は頭脳を明晰ならしめ
晝の一杯は活動の根源となり
夕べの一杯は疲労回復、一夢の和樂となる
▲血腸の障。下痢には極めて偉効あり
絶對類似品の追隨を許さず

大ビン一本 金一圓四十錢
中ビン一本 金七十五錢
試用ビン一本 金十錢

平町三丁目
ホシチエンストア
電話 四二九番

新入學期と計時
計時器
谷大計時器

●器械部線異状なし
●優良なる器械で安く
●殊に學生に元價提供

平三
大谷計時病院
電話 九十番

特賣
たひら正宗 福島縣清酒品評會
一等賞受領品

花春 同優等賞受領

監製 最上醬油醸造元
山崎合名會社
平町土橋 電話 一〇番 二七番

東京支店
電話 下谷五七二番

りん病 美神淋藥
ウミが出て激しき痛み
も二日奇麗になります

ばい毒 横根は切らずに引込み悪ド
クは薬品のため死滅す

退治湯 胃腸病 ポーヨーカタル
神經痛 リウマチス 風のクス
一血のクスリ

地方代理店
阿康藥店
電話 四四番

御入學進級の記念に
無料検眼

大根本
時鏡
計鏡
店部

大特賣
粗景
進呈

耳鼻咽喉科 専門
氣管食道科

平町南町
大和田醫院
電話 一七〇番

入院隨意 (自炊の便あり)

漆器の御用命は
是非 和久井屋へ……

電話 四〇五